

徴すべさなく、今は審ならざるも、其構築の歲月短きに攷ふれば、恐くは嘗て秦、魏、趙、燕諸國の築ける長城を連結補修したりしものならん。其東部の終點は遼東とあるのみにて其地點明かならざるも、西方の起點たる臨洮は、今の甘肅省鞏昌府の管下なる岷州の地なり。此地に岷山ありて秦時の長城此より起れりと云ふ。而して岷山より北して蘭州に至る線は、既に業に廢滅に歸し、今は其遺址を留めざるより察すれば、東方の線も亦恐らく同様の状態に陥り、現存するものは總て後代の築造に係り、秦代の遺蹤は尋ぬべからざるが如し。

長城の現状は、東は山海關より起り、西は嘉峪關に至り、更に玉門關に延び、延長約六百餘邦里あり。而して北京の西北方と、蘭州の北方とは、共に内外の二線を有し、直隸山西の省には南北の縦線ありて、互に相連絡せり。此等の沿革悉く詳にすべからざるも、古史に散見する所を摺綴して左に掲げ、歴代修築の一斑を示さんとす。其委曲の如きは、之を専門家の研究に俟つ。

漢の武帝元朔二年(紀元前百二十七年)大將軍衛青をして匈奴を撃たしめ、朔方に長城を築き、又秦時の長城をも修理せしめたり。此時代には西域の交通及遠征頻繁にして